

授業科目名	公衆衛生看護活動展開論演習		担当教員	◎川上 裕子、鶴岡 章子、 佐々木 亜希子	科目ナンバリング
選択	開講年次：4年前期	単位：2単位	授業形態：演習60時間		NP404

【授業概要】

公衆衛生看護学実習Ⅰを行う市町の既存資料をもとに地域アセスメントを実施し、健康課題の明確化と構造化、対策の検討、実施、評価までの地域看護診断の過程を学修する。実習市町の健康課題を明らかにした後は、保健対策としての健康教育の企画・準備・実施・評価を行い、地域におけるハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの連動の意義や方法を理解する。

【達成目標】

1. 実習市町の既存資料をもとに、地域アセスメント、健康課題の明確化・構造化、対策の検討、実施、活動の評価までの一連の過程を理解できる。
2. 既存資料から実習市町のヘルスニーズをアセスメントし、健康課題の抽出・構造化、優先順位の決定を行い、地域における保健対策を検討することができる。
3. 地域の健康課題の解決に向けた健康教育の企画、準備、運営、評価の一連の過程を実践することができる。

【履修条件】

3年後期までに開講されている保健師教育の必須科目の単位を修得していること。

【授業計画】

[01] 演習ガイダンス／地域看護診断とは	(川上・鶴岡)
[02] 地域看護診断における健康指標の見方・分析方法	(鶴岡・川上・佐々木)
[03] 地域看護診断の実際① 既存資料の活用と情報収集(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[04] 地域看護診断の実際② 情報収集(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[05] 地域看護診断の実際③ 地区踏査の計画作成(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[06] 地域看護診断の実際④ 地区踏査の実施①(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[07] 地域看護診断の実際⑤ 地区踏査の実施②(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[08] 地域看護診断の実際⑥ 情報の整理・統合(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[09] 地域看護診断の実際⑦ アセスメント(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[10] 地域看護診断の実際⑧ 健康課題の抽出(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[11] 地域看護診断の実際⑨ 活動目標と活動内容の検討(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[12] 地域看護診断の実際⑩ 活動内容、評価のポイント(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[13] 地域看護診断の実際⑪ 発表準備(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[14] 地域看護診断の発表(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[15] 地域看護診断の修正(グループワーク)	(鶴岡・川上・佐々木)
[16] 健康教育とヘルスプロモーション／健康教育テーマの設定に向けて	(川上)
[17] 健康教育の実際① 健康教育に係る資料収集(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[18] 健康教育の実際② 健康教育計画の立案(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[19] 健康教育の実際③ 健康教育計画書の作成(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[20] 健康教育の実際④ 指導案の作成(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[21] 健康教育の実際⑤ 指導案の作成・教育媒体の検討(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[22] 健康教育の実際⑥ シナリオ作成(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[23] 健康教育の実際⑦ シナリオ作成・教育媒体の作成(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[24] 健康教育の実際⑧ 教育媒体作成(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[25] 健康教育の実際⑧ 練習(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[26] 健康教育の発表①(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[27] 健康教育の発表②(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[28] 健康教育の評価(グループワーク)	(川上・鶴岡・佐々木)
[29] 指導案の修正と提出、レポート作成	(川上・鶴岡・佐々木)
[30] 地域看護活動とは／まとめ	(鶴岡)

【教科書】

荒賀直子・後閑容子他(2022)：公衆衛生看護学.jp(第5版 データ更新版)、インターメディカル。
井伊久美子・勝又浜子他(2021)：新版保健師業務要覧(第4版) 2023年版、日本看護協会出版会。
厚生労働統計協会(2022)：国民衛生の動向 2022/2023、厚生労働統計協会。

【参考書】

岸恵美子他(2022)：保健学講座2 公衆衛生看護支援技術、メヂカルフレンド社。
中村裕美子他(2020)：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(第4版)、医学書院。

【評価方法・評価基準】

グループ討議および発表(70%)、課題レポート(30%)

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：公衆衛生看護学に関する科目を復習して授業に臨む。演習計画にそって予め資料・媒体等の準備を行う。(1時間)

事後学習：各回の演習内容を復習し、グループで計画的に進められるよう情報共有に心がける。(1時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ、根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ、チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ、ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅴ、国際的視野と地域貢献能力、Ⅶ、包括的看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

グループ発表及びグループ課題のフィードバックは授業の中で行う。
個人レポートのフィードバックを希望する学生には、個別に説明する時間を設ける。

【備考】

本科目は、「公衆衛生看護活動展開論Ⅰ」、「公衆衛生看護活動展開論Ⅱ」を総括する科目であり、「公衆衛生看護学実習Ⅰ」と直結する科目である。

(保選)保健師国家試験受験資格取得のための選択必修科目

保健師教育課程の履修許可を得た学生のみ履修可能